

広域首都圏防災研究センター 設立記念シンポジウムが無事終了！

一般住民、国、県、市などの防災担当者など、約250名が参加

平成22年6月20日13:00より、本専攻内に新設した広域首都圏防災研究センターの設立記念シンポジウムを開催しました。

第1部の設立記念式典では、主催者を代表して清水義彦専攻長、板橋英之工学研究科長が挨拶し、山田邦博国土交通省関東地方整備局河川部長、大澤正明群馬県知事、亀山豊文桐生市長からご祝辞を頂戴しました。そして、片田敏孝センター長より、本研究センターの設立趣旨についての説明がありました。

第2部では、NHK総合テレビ「ニュース7」で気象情報を担当している半井小絵さんに「気象情報の裏話」という演題で基調講演をお願いしました。気象予報士の日や気象情報を視聴者にわかりやすく伝えるために行っている工夫などについて、お話いただきました。

そして、第3部では、田中淳東京大学総合防災情報研究センター教授、山田邦博国土交通省関東地方整備局河川部長、池谷浩（財）砂防・地すべり技術センター理事長、川瀧弘之群馬県県土整備部長をパネリストとしてお招きし、『広域首都圏防災における群馬県の役割を考える』というテーマでパネルディスカッションを行いました。議論の内容としては、事前対応の必要性、首都圏と連携するとともに、地域に根付いた研究活動を推進することの重要性が指摘されました。ここでの議論は、今後の本研究センターの活動に反映していきたいと考えています。

当日は梅雨とは思えない晴天に恵まれ、（大正時代に建設された歴史ある建物のため）空調施設が十分ではない会場は大変暑くなってしまいましたが、一般住民の方のほか、国、県、市の防災担当者など、約250名の方に参加していただきました。今後も定期的に研究成果の報告をおこなっていききたいと思います。



会場の様子



パネルディスカッションの様子